

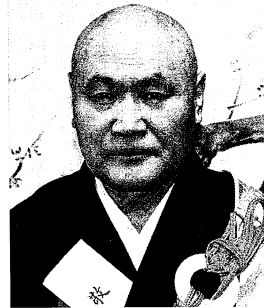
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

会長挨拶

横浜市仏教連合会
 会長 川上敬吾

今年の第三十四回涅槃会は当番区仏の戸塚区仏教会のご協力をいただき無事円成することが出来ました。戸塚区仏教会の北見会長様をはじめ会員諸師のご尽力のためものと感謝申し上げますとともに、



会場をお引き受け下さいました優勝寺様には何かとお心くばりをいただき多大なる便宜を賜り大へんお世話になりましたこと改めて御礼申し上げます。

私も会長職を拝受して四年になりますが涅槃会も四ヶ所の区仏をまわり都合四回務めさせて頂きました。どの区の涅槃会も担当区仏のご尽力によってどの会場も区仏各寺院の檀家の方々が大へん多くご出席されており、市釋尊奉讃会の会員の方々と合わせて大勢の参加者によって盛會裡にそれぞれ特色ある涅槃会が挙行されており、何よりことと有難く思っております。唯少々思

えることは最近の涅槃会に随喜して下さる会員(ご住職)の方々が若干少ないように感じることで、もうすこしご寺院方の出席が多くなりますと尚一層充実した涅槃会になることと思います。市仏連の最も大きな行事の一つです。是非会員諸師のご理解をいただきたいと思います。又釋尊奉讃会の行事にしても在家の方々に対して大事な布教の場でもありますのでこちらに対してもご理解をいただきご協力をお願いしたいと思います。市仏連の諸行事を遂行するにあたって会員各位に充分行き届いていることが大事でそれには市仏連の執行部と区仏の会長方とのコミュニケーションがもととほかられなければならぬと思えます。四年間市仏連の運営に役員一人として加わってきて感じたことですが理事会の開催数が年二回と大へん少ないので開催数をもっと増やすことが運営上必要なのではないかと感じております。区仏の会長さんは皆理事ですので区仏会長と市仏連役員との間のコミュニケーションをはかることによって市仏連の諸事業が全会員に浸透し行事等については深く思っています。理事会の回数は少なくとも二ヶ月に一度ぐ

らいは開くされるのが良いのではないかと思えます。さて本年は横浜市仏教連合会が設立されて六十年、横浜市釋尊奉讃会が設立されて三十年、それぞれ発足以来大きな節目を迎えることとなります。この大きな節目を機にそれぞれの会を尚一層充実させ発展させるべく何かアクションを起すことも考えられます。

元市仏連元会長

志村慎吾師ご遷化

平成二十一年二月九日に元市仏連会長志村慎吾師が世寿九十五歳をもってご遷化されました。師は大正二年(一九一三年)八月三十日、静岡市清水区中河内、妙心寺



を歴任し、昭和五十年横浜市仏連会会長に就任。国際ロータリークラブ第二九四地区横浜金沢クラブ会長。平成元年金龍院本堂改修境内整備諸工事を完了により入仏落慶法要厳修し、住職歴五十年を以って退山し、閑栖二十一年。平成二十一年三月二十六日に本葬儀(津葬)が営まれ、当会より、川上敬吾会長、玄野孝善、山本信行の両副会長、林田眞成専務理事、秋山智謙会計担当理事、会報担当 備前恭忍、程木昭徳奉讃会事務局次長が参列し焼香申し上げた。

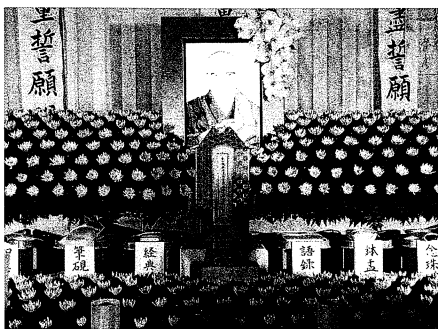


涅槃会担当区予定

- 平成22年第35回 鶴見区仏教会
- 平成23年第36回 西区仏教会
- 平成24年第37回 磯子区仏教会
- 平成25年第38回 神奈川区仏教会
- 平成26年第39回 緑・青葉区仏教会
- 平成27年第40回 保土ヶ谷・旭区

第八代横浜市仏教連合会会長 故 志村慎悟師を偲んで

横浜市仏教連合会副会長 玄野孝善



元市仏連会長 故志村慎悟老師との出会いは昭和五十二年の一月であった。その当時私は保土ヶ谷旭区仏教会の庶務を担当していましたが、保土ヶ谷区福聚寺の先代、故森山正城老師に市仏連にちよつと顔を出してみないか、横山老師も役員をやっているから色々々と勉強になるよと誘われ、西有寺さんに顔を出したのが運の尽き。当時志村慎悟師が会長だなんて全く私は知らなかった。しかし、志村会長は私の顔を見るなり「玄野君ご苦労さま、よろしく」とにこにこ顔で挨拶してくれました。私はなんのことかわからないので森山師をにらんだ。そしたら森山さんもにこにこ顔をしているだけ。そのとき横山老師からどさつと書類が渡された。「君は僕の後をよろしく」と言われ、「専務理事の委嘱状を作成するから今度の総会でお渡しします」といわれた。そこで初めて役員に引きずり込まれたと思つた。それが昭和五十二年一月二十四日のことであつた。それからというもの、市仏連理事さんの顔も名前もわからずであつたが、当時市仏連副会長であつた南区三春台の新善光寺の福永師がなぐさめるように丁寧な指導をしてくれました。

会長は軍隊上がりのせいか、横浜市の役人上がりのせいか、頑固でやることなすことをきちんとやらないと気がすまない。涅槃会の講演の講師は女性が良いと言いつ張る。毎回のことであつたから「会長、今度は男性の講師にしたらどうでしょう」と言うや否や「こんな大切な行事には男じゃ人が集まらない、君は何を考えているんだ」と何度もおしかりを受けました。でも今になって思うと、金沢区の称明寺さん、南区の弘明寺さん、港北区の金蔵寺さん、中でも西有寺さんで催した瀬戸内寂聴さんの講演は本堂に入りきれないほどの参加者でいっぱいだった。やはり会長の人徳かなんだかわからないが、どれも大成功であつた。また仏教会のとりまとめも上手に人を導き、会の運営 つもまとまっ



ていた。やはり会長はずこい力があつたんだなとつくづく感じた。また一方、「横浜市釈尊奉讀会」を立ち上げ、ベトナム戦争の難民が横浜へ来たらその手助けをしようと発足させ、これからの仏教は僧俗一体となることが大切だと金沢区の宇野野さんを会長に選任し、多大の功績を残されました。

私は会長とは意見の疎通があつて何度かやり合いましたが、昭和五十六年五月七日の総会で会長職を辞任するまでの五年間、市仏連の専務理事として努めました。そして、他方面にわたつてご指導を

受けました。その後は時々お会いも致しましたが、平成二十一年二月九日に御遷化されたと聞き、びつくり致しました。三月二十六日、金龍院第二十世として志村慎悟師の本葬がいとなまれましたが、私はその前日の晩、会長との思い出が走馬灯のように浮かんで消え、消えては浮かび、眠れませんでした。本葬当日朝、ちらちらと小雪が降りそそぐ寒い日でしたが、思い出を胸に参列させていただき、楞嚴呪の読経の中、香一炬を焚き、お世話になりありがとうございました、感謝の気持ちでいっぱいでした。

心から老師のご冥福を申し上げると共に、これからもご指導をお願い致しますと念じて、金龍院を後にしました。



遺偈
嶺南二十嶽東五十
末後端的愚魯平生
珍筆
庚申晚秋 牛龍院主楓崖

志村師の遺偈

志村師が描いた達磨図

21. 3	21. 3	21. 3	21. 2	21. 2	21. 2	21. 1	21. 1	21. 1	20. 12	20. 12	20. 11	20. 11	20. 11	20. 11
26	24	16	13	9	8	22	16	12	24	2	28	7	7	7
元会長志村師本葬儀	弔電金沢区金龍院	会報編集東泉寺	選考委員会サンオーブ	第34回涅槃会戸塚区	志村慎悟師遷化	奉讀会だより送付	涅槃会打合 倫勝寺	打合わせ案内送付	涅槃会案内送付	役員会 四川飯店	役員会(四川飯店)	祝電 緑区大林寺	祝電 緑区大林寺	祝電 緑区大林寺

事務日誌

平成23年11月	平成23年10月	平成23年6月	平成23年4月	平成22年11月	平成22年10月	平成22年6月	平成22年4月	平成21年11月5日	平成21年10月5日	平成21年6月5日
磯子区	西区	南区	神奈川区	緑・青葉区	都筑区	瀬谷区	泉区	栄区	戸塚区	鶴見区

泉恩靈堂出仕当番表

平成21年第36回	平成22年第37回	平成23年第38回	平成24年第39回	平成25年第40回	平成26年第41回
戸塚区・瀬谷区	泉区・栄区	鶴見区・神奈川区	西区・磯子区	港北区・金沢区	中区・保土ヶ谷区

第三十四回涅槃会開催

於 倫勝寺 戸塚区仏教会担当

平成二十一年二月十三日(金)
 横濱市仏教連合会主催、同積尊
 奉讃会協賛の積尊涅槃会が戸塚区
 仏教会(会長・北見秀明師)担当
 で曹洞宗の倫勝寺・通称「合掌の
 里」(住職・馬場義実師)を会場
 として開催・実施された。当日は
 曇天、強い風が吹いた。南風、春
 一番、夜、雨になった一日であっ
 た。戸塚区川上町九二六の一。午
 前十一時に役員・関係者一同集合
 し、会場設営の点検と式進行の直
 前習礼を本堂で入念に行い、戸塚
 区仏と倫勝寺各位の心尽しのお握
 り飯と温かい汁物、漬物の昼食を
 いただいた。御本堂本尊、涅槃図
 額葬前に四角い小さな涅槃餅の一
 個に三色が混合したのがお供物と
 して三宝に盛り、香台には見事に
 灰ならしをした香炉が置かれ、
 横濱市仏教連合会、戸塚区仏教会
 の名札の生花が左右に飾られ、広
 い本堂外陣には椅子が百脚余り並
 べられ開式を待つばかりの会場と
 なっていた。一時は鳳倫閣前のテ
 ントで受け付けが始まり、甘納豆
 入りの袋と積尊奉讃会だよりと市
 仏連春の仏跡参拝案内紙が参拝者
 に配布されていた。講師の大谷哲
 夫先生の控室には大学の教え子の
 和尚さんや著作「永平の風」を買
 い求めて持参しサインを依頼され
 る女性達が訪れ、気さくに応じら
 れ賑わっていた。僧侶五十余名、



一般檀信徒、倫勝寺関係者ら一二
 ○余名の合計一七〇名の参列者を
 得て、午後一時半、涅槃会法要が
 厳修された。司会進行は林田眞成
 市仏連事務理事。式次第は付記の
 差定の如し。観音経読経開始と共
 に代表者指名焼香、神奈川県仏教
 会会長・本間孝康師、横濱市仏教
 連合会顧問・都築哲信師、当会講
 師・大谷哲夫先生、横濱市積尊奉
 讃会会長・美濃口久義氏、倫勝寺
 檀徒総代・森田和之氏。参列者は
 回し焼香。
 二時頃休憩一〇分間に旅行社の真
 川氏より春の仏跡参拝旅行のご案内。
 内、二部、市仏連会長挨拶・川上
 敬吾師。積尊奉讃会会長挨拶・美
 濃口久義氏。神奈川県仏教会会長
 挨拶・本間孝康師。戸塚区仏教会
 長挨拶・講師紹介・北見秀明師。

午後二時半より、講師・大谷哲夫
 先生の講演「涅槃会に学ぶ」を拜
 聴した。大谷先生は、本年正月よ
 り上映されている映画『禅・Z E
 N』の原作者であるだけに、映画
 にまつわる興味ある話とともに、
 道元禪師の説く涅槃会の意味を熱
 く語られた。最後に、落語家であ
 りながら、大学ラグビー部の監督
 でもあるという異色の真打、三遊
 亭貴楽師匠から、楽しい話を伺っ
 た。最後に、山本副会長が、世界

講演録

『涅槃会に学ぶ』

駒澤大学総長 大谷 哲夫

涅槃会に因みまして、私は道元
 禪師の研究者ですので、道元さん
 が涅槃会についてどう説かれたかを
 お話したいと思えます。
 道元禪師は、二月の十五日に、
 涅槃会に因みまして毎年お説教さ
 れていました。一つの例を現代語
 で紹介します。寛元四年(一二
 四六)、四十七歳の時のお話です。
 「この日、我が本師である釈尊
 は、クシナ城のバツダイ河のほと
 り、沙羅林において般涅槃はつ
 ねはん)された。それは、ただ釈
 尊おひとりのことではない。過去・
 現在・未来、世界のありとあらゆる
 諸仏が、みな本日の夜半に涅槃
 の境地に入られたのである。ただ
 諸仏だけではなく、インドの二十
 八代の祖師方、中国の歴代六人の
 祖師、また仏祖たるべき面目を持
 つ人々、すべてのものが、今日の
 の夜半に涅槃の境地に入られたの
 の平和に貢献する仏教として益々
 の皆様の信仰をお願いしたいと結
 ばれ閉会となった。
 差定
 一、開式の言葉
 二、上香普回三拜
 三、三帰依文の唱和
 四、啓白文の奉誦
 五、読経 観音経・舍利礼文
 六、回向、普回向
 七、普回三拜
 八、導師・両班退堂

である。この事実については、時
 間的な前とか後とか、自分とか他
 人とかの別はない。もし、まだ今
 日の夜半に涅槃の境地に入らない
 ものは、仏祖でもなければ、すぐ
 れた仏教徒でもない。この夜半に、
 涅槃の境地に入ればこそ、すぐれ
 た仏教徒なのである。すぐれた仏
 教徒であるからには仏祖でもある。
 そして、涅槃を同じくすればこそ、
 また、仏道の行持を(行動の範囲
 内で)専一にするのである。言っ
 て見れば、鍋や釜の足の折れたも
 のやそうでないもの、柄杓の柄の
 短いもの長いもの、さらに、人間
 では、鼻の低くて平たいもの、ま
 た、高くて真っ直ぐなもの、顔の
 造作のでこぼこしているもの、そ
 のようにあるがままに、あらゆる
 のが何の区別もなく、当たり前
 にどのような在り方でも存在して
 いる、杖は杖として存在してい
 る、そのことを判然(はっきり)と
 体認(言葉だけでなく身体で知る)
 したときこそが、生涯をかけて参
 究修行すべき最も重大なことを見
 極めたと言えるのである。」
 というように、永平寺において修
 行僧に対して述べられています。
 須弥壇の上から真正直に説法して
 いる気概が感じられます。そして、
 続けて、
 「そうした涅槃寂靜の境地になれ
 ばこそ、本来、よんだだ水に竜は
 住まないが、よんだだ水に竜が住
 んでいるのに、どのようなところ
 にも人はいないという境地にもな
 れる。さらに、泥は泥としてあり、
 土は土として、あるがままに存在
 している。そして、迫害され、石
 を投げつけられ、前歯を欠いても
 求法された達磨もおられたし(やつ
 かみで二度も毒殺された)、
 二祖の慧可のように、命を失うこ
 とを恐れずに左の臂を断つてまで
 も真実の仏法を求められたお方も





おられた。こうしたことがなんの不思議でもなく、当然のこととして体認されるのである。物の存在は、本来が不定であるから、当然今日は有つても明日は無いということもありうる。時間というものも、全く同様であるから、何物にもとられずに、この夜半の般涅槃の真の意義をとりあげて、無限の時間(修行)と名づけ、全身全霊をこめて、この涅槃をまた「永遠の寿命」とも名づける」と説きます。ですから涅槃というのは単なる死ではないということなのです。

さて、さらには、こういうことは、みんなが知っているのにもかかわらず、それを我々の計らいで認めようとするのだと道元禪師は言います。道元禪師は中国から帰ったとき、「眼横鼻直」ということが認識出来たと言っています。正にあるがままの姿があるがままに認めるという仏法なのです。しかし、その上にはつきりと指摘し

なければならぬと言います、そのすべてを知りたいかとするべく問うのです。そう問いかけるとしほらく間をおいて(良久して)続けま

す。「他人の顔に釈尊の眼をつけて、仏法の理解を仮のものとするのではなく、真実の仏法の眼を自分のものとしなければいけない。だから、釈尊の涅槃を単なる死としてとらえ、手で胸をたたいて虚しく悲しむばかりなのだ。それは、天魔とさらに生死の煩惱の狭間で、どうすることもできず右往左往しているだけだ。そんな風だから、もがき苦しんで、せつかく自分の中にいる仏に出会わない。そして、そのことに気がつかないで外に仏を探し回ってしまうのだ。」

と、いう偈頌(漢詩)を述べると、私子(ぼつす)を投げ捨て、すべてを放下せよという境涯を示して座を降りたといっています。

これは禅宗で行われる上堂と呼ばれる涅槃会の説法です。涅槃会とは、釈尊が寂滅された追悼報恩の法会であるわけです。駒沢大学は四百十七年続いている学林ですが、私はこの歴史と伝統を受け継がなければならぬと思つています。伝統とは長い記憶の歴史なのです。この市の連合会の涅槃会がずっと続いて行われていることが尊いのです。忘れてしまったら途絶えてしまうのです。仏法も誰かがきちんと持続させ、師匠から弟子へ伝えていかなければ、途絶えてしまうのです。お寺の維持もそうです。みなさんがきちんとした

心構えでやつていかないと途絶えてしまいます。

釈尊の入滅の日は不明なのですが、第二の月の満月とされていて、中国や日本では二月十五日と定めたと伝えられています。日本では興福寺(山階寺)の涅槃会が有名で常楽会と呼ばれています。涅槃図をよく拝見しますと、すばらしい景色が描かれています。沙羅林の葉もしほみ、あらゆるものが悲嘆し、パツダイ河の水も愁心して流れている様子に対座すると、道元は、

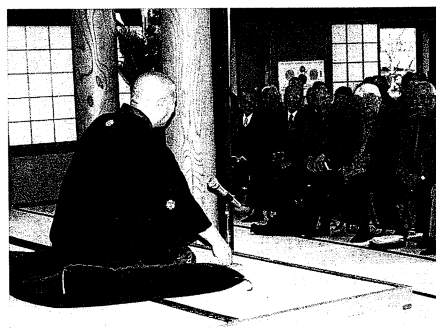
「その涅槃に入る、皆、恋慕して、涙何ぞ乾かん。たとえ常在靈山の語を憑むとも、何ぞ恨まざらん。沙羅双樹の寒きことを。」(涅槃会に入られ、ずっとお説法をしてい



の涅槃を憂うるなり。」(草木すら悲しんでいるんだよ。)という言葉にあるように、この涅槃図を見ていると良く伝わってきます。

そして、この涅槃会に、涅槃の真実の意味を徹底的に参学することがいかに大切であるかを、古来より伝えてきたかがわかります。そして、大切なことは釈尊独りの涅槃では無く、すべてのものが、時間の前後、自他とかを超越して、今日の夜半に涅槃の境涯に入つたことです。つまり、一生の参学を見極めること、仏法の真実を見極めるということは、ありとあらゆるものの存在の仕方、あるがままにはつきりと体認していくことなのです。しかも、存在そのもの、時間さえも不定なものなので、そこにとらわれてしまつて、生死の狭間でもがき苦しんで我々は生活をしているのです。四苦八苦しているという言葉もあります。煩惱の数はいくつですか?百八つです。ね。何故でしょう。四・九二三

六・八・九二七十二を足すと百八つになります。このようなことを江戸時代のお坊さんは考えていました。仏教の原点は苦からの解脱なのです。苦から離れることが仏教の出発点なので、わかつただけでなく、そこから逃れることが大切なのです。そして、真実の正伝の仏法を把握するというのは、ありとあらゆることを放下することなのです。北条時頼は三浦一族を殲滅するわけですが、二十歳の若さでその



罪の重さにさいなまれる訳です。そこで道元さんが鎌倉に行つて説得するのですが、

「あなたは執権という職にあり、人々を救う立場にありながら、救われたいと思ひながら何も放下していないではないか」

と迫るのです。道元さんは、涅槃会の説法の中で、私子を捨てるといふ行動の中で、自ら放下するということ表現されたわけですから。私はこの度、十年かかって『禪・N四』という映画を完成させました。この原作となつた『永平の風』というノンフィクションの本をなぜ書いたのかと申しますと、今まで道元さんは只管打坐で坐禅ばかりで画にならなかつたと言われたのですが、私は何となくと禅というものを世界に広めなければいけないと思つたからです。この世の中、戦後六十年経つても、日本人が日本人として享受すべきものを捨て去つていく。こんな民族はありません。日本人とは何なのか、

原点に帰らなければいけません。という意味でこの映画を作りまし。お陰さまで好評を得ているよ。うです。

ほんとうに救われるということ。は、すべてを投げ出さないとだめなのですが、そのようなことも映画の中に書いてあります。

涅槃ということとは単なる死ではないということをご理解ください。さらに解説しますと、涅槃という言葉は梵語のニルバーナを音写したもので、その字に意味はありません。煩惱の火が吹き消された「心の安らぎ」をいうので、迷いのなくなつた悟りの境界を涅槃と呼んでいるのです。「心の安らぎ」というのは癒しではありません。癒されたと、最近よく使われますが、この字は病だれです。単なる一瞬のまやかしなのです。私たちが求めているほんとうの安らぎは「安心・あんじん」なのです。安心という言葉は仏教用語なのです。心が安らぐのです、癒されるのではありません。医療では一時的には治療として癒すことも大切かも知れませんが、しかし、「あんじん」として、ほんとうの心の安らぎを求めるのが仏教なのです。私たち先祖は、仏教を通じて心の安らぎを求めてきました。しかし、戦後六十年の間に教育によって仏教が遠ざけられ、日本人が日本人たる根本を見失ってしまいました。

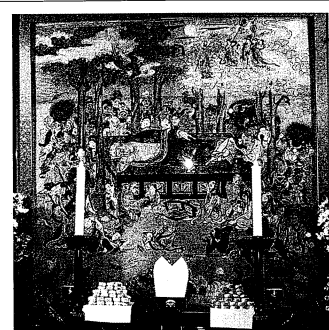
釈尊の入滅は、大般涅槃、大円寂とも言われます。それは、「いろは歌」に説かれますように、どんなに盛りを誇っていても、やが

ては衰え滅していき、この世に常なることは無いという有為転変の世の向こうへ、今、去らなければならぬ、そして、浅はかな夢は見まい、無明に酔いしれることはしまい、という諸行無常の真理と同時に、この消滅変化を越えた世界を自覚して、惑いから醒めて、迷わされることはない永遠の境界を指すわけです。その永遠の世界を「涅槃」と呼ぶわけです。

ですから、涅槃に入ることを死ぬことと同じと考えますが、ほんとうはもつと大きな意味があります。しかし、道元さんの言う通り、他人の顔に釈尊の眼をつけるように、ほんとうの仏法の眼を自分の心と眼で見ない限り、涅槃の意味はわからないのです。結局、ひたすらこの命を生き抜く、ただ中にある生滅も変化もそれ自体、真実の命が涅槃である訳です。それを自覚するところにほんとうの心の安らぎがあるのです。

二十一世紀は心の時代と呼ばれていきます。私は戦後のバブルがはじける寸前から言われるようになりました。戦後の混乱から抜け出し

て心時代を担っていくのは、仏教徒であると言っています。先祖師方の中でも、道元さんは日本人の魂、確たる原点を形成した一人であると思っております。生涯にわたる求道の旅路を遂げたこの人を何とかして世に出してみたいと思ひました。十年かかって何とか(映画が)できましたが、お陰で勘太郎のすばらしい演技に出会うこともできました。実に演技の風格は立派でした。勘太郎にひっぱられて他の役者も演技をしたと言っていたそうです。演ずるといふDNAが備わっていると感じました。



「このあと、涅槃図にまつわる話、映画『禅・ZEN』の制作のエピソードなどをお話しいただきましたが、紙面の都合で割愛させていただきました。現代語訳収録には「道元」永平広録・上堂・選(講談社学術文庫を参照しました。)

倫勝寺涅槃図

倫勝寺本尊前の前机に置かれた額の中の涅槃図は千葉県田の昌童寺に伝わっていたもので、作者は菱川師宣の伝とされている大きな図絵。菱川師宣(ひしかわもろのぶ)元和四年(二一八年)元禄七年(二六九四年)の江戸初期の浮世絵師。安房(あわ)千葉県の人。在来の画法を修得。天分を生かして市井の風俗、美人を画き、浮世草などのさし絵に妙技をふるった。浮世絵大成者の最高峰で、のちの江戸浮世絵の開祖。代表作「見返り美人」大和絵づくし」など有名である。「旺文社の世界人名事典より

敬白文

本日、茲に横浜市仏教連合会主催・横浜市釋尊奉誦会協催戸塚区仏教会当番による第三十四回釋尊涅槃会を修するに当り、会処戸塚区「合掌の郷」倫勝寺道場を莊嚴し涅槃像を祭り、謹んで香華(こうげ)・灯燭(とうしやく)を備え以って供養の誠を捧げ奉らんとす。即ち大恩教主釋尊在世の業跡を追慕し、涅槃の真理趣を仰ぎ、その尊きみ教を奉持して、共に悔い無き人生を全うせんと冀(こいね)がうものなり。今、釋尊のご生涯を尋ねるに、今より二千五百有余年の昔、インドのカピラ国の王子としてヒマラヤの麓(ふもと)ルンビニーの花園に於て誕生されました。「天上天下唯我独尊」と称えられ「人間の尊嚴、生命のかけがえの無き尊き」を宣言されました。長じて輪廻(りんね)の所作に実体の伴わぬことを照覽して出家を決意され、生・老・病・死の四つの苦悩を離れる道を探求めて御歳(おんとし)二十九歳の時に出家し六年間の苦行の後、三十五歳の御時(おんとし)、尼蓮禪河(にれんぜんが)のほとりの菩提樹の下にて深い瞑想に入り、この世の真相と共に生きる人の道をお悟りになりました。鹿野苑(ろくやおん)で初めてご説法なされてより四十五年間、インド各地に衆生救済の旅を続けられ、仏陀(ほとけ)としてのご生涯を全うせられ、御

歳八十歳にしてクシナガラ城外沙羅双樹の園に於てご入滅に当り別れを悲しむ弟子達に「徒らに悲しんではいけない。生あるものは必ず滅する。会う者は必ず別れる時が来る。私だけがどうして死なないでいることが出来ようか。皆さんは一つとめて教を守り心を真直(まっすぐ)にしなさい。そうすれば常に私を見ることが出来ます。そして謙虚な心で人に供養するならば心安らかに喜びが得られる。はげめよ、つとめよ、急ることなかれ」と。世に云う自灯明、法灯明の教えを最後に静かに涅槃に趣かれたのであります。そもそも涅槃とは経に曰く「貪欲(どんよく)永く尽き、瞋恚(ちんし)永く尽き、永く尽き、愚痴(ぐち)永く尽き、一切の諸煩惱永く尽く。是を涅槃と名づく」と。即ち釋尊の入滅は死することではなく、三毒の煩惱滅尽して真理に輝くの姿なり。又「不生不滅にして三世常住の義あり。更に常樂我淨の如来の四徳、具わるの意なり」と。三界の救世主大聖(たいせい)釋尊の入滅の聖なる日に当り、その恩徳を奉謝し、この世の中が平和で全ての人々が幸福であることを願ひ、茲に供養の誠を捧げたまつらん。乃至法界(ないしほ)かい)平等利益(びやうどうりやく)維時平成二十一年二月十三日

市仏連会長 川上敬吾 敬白

神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区大平町九六
電話六六一〇一六六

横浜市仏教連合会顧問
法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220 0002 西区南軽井沢九
電話三一―三五五七

横浜市仏教連合会会長
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 0077 鶴見区東寺尾一―一八一
電話五七一―一七〇一

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五九九
電話三九一―一三七九

横浜市仏教連合会副会長
都筑区仏教会長
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224 0053 都筑区池辺町二八二七
電話九四一―一三六七

横浜市仏教連合会会計担当
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234 0056 港南区野庭町六四三
電話八四二―七二八八

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇
電話三三一―〇六〇七

横浜市釈尊奉讃会事務局次長
曹洞宗東照寺住職

程 木 昭 徳

〒223 0053 港北区綱島西一―一三一―五
電話五三一―一七八三

横浜市釈尊奉讃会事務局長補佐
曹洞宗東林寺住職

滝 田 光 久

〒222 0026 港北区篠原一二五二二
電話四二一―〇三三二二

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244 0842 栄区飯島町二―一四九
電話八九一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 0057 神奈川区高島台一―一二
電話三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
緑・青葉区仏教会長
高野山真言宗萬藏寺住職

河 本 岡 文

〒226 0012 緑区上山二―一五―二
電話九三一―一五七三

横浜市仏教連合会常務理事
西区仏教会長
曹洞宗萬徳寺住職

横 山 正 彦

〒220-0031 西区宮崎町三三二
電話二四二-四五三三

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禅寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区清水ヶ丘二二五
電話二三一-七五九〇

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗真照寺住職

水 谷 栄 寛

〒235-0016 磯子区磯子八-一四-一二
電話七五三-五一四七

横浜市仏教連合会常務理事

金沢区仏教会長
臨濟宗建長寺派金龍禅院住職

志 村 碧 崖

〒236-0027 金沢区瀬戸一〇-一一-二
電話七〇一-八八二三

横浜市仏教連合会常務理事
戸塚区仏教会長
曹洞宗雲林寺住職

北 見 秀 明

〒244-0002 戸塚区矢部町七八八
電話八六一-一三二四

横浜市仏教連合会監事
真言宗御室派寶珠院住職

佐 伯 隆 義

〒236-0051 金沢区富岡東五-八-一九
電話七七七-一五〇一三

横浜市仏教連合会常務理事
港北区仏教会長
日蓮宗妙蓮寺住職

山 本 玄 征

〒246-0006 港北区菊名二-一-一五
電話四三三-一四四一

横浜市仏教連合会会計担当
日蓮宗妙光寺住職

秋 山 智 謙

〒246-0006 瀬谷区上瀬谷町八-三
電話三〇一-二九八九

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
臨濟宗建長寺派

三 田 裕 道

〒246-0013 瀬谷区相沢四-四-一
電話三〇一-二六八八

横浜市仏教連合会会報担当
曹洞宗東泉寺住職

関 水 俊 道

〒245-0017 泉区下飯田町七四三
電話八〇二-一八〇九七

真言宗豊山派西福寺住職
備 前 恭 忍

〒246-0037 瀬谷区橋戸三-二-一二
電話三〇一-六一三三

横浜市仏教連合会顧問弁護士

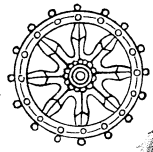
遠 藤 隆 也

〒221-0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八-三
電話四三二-一六一九二
〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二-一八-七
電話〇三-八三二-二八一九

横浜市仏教連合会御用達
株式会社工久観光神奈川社長

真 川 明

〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一-四
公園ハイツ二-一-一八
電話三三四-一三四〇〇



区仏だより

都筑区

先日新聞を手にした時、大きな活字で「笑顔運ぶ古ボール」「途上国の子供に300個」の見出しが目に入った。つまり古いサッカーボールを途上国の子供たちに贈る活動が続いている夫婦が都筑区にいたのだ。酒店を経営する内野敦さん(42)と春美さん(38)。海外のマラソン大会参加するのが趣味だった敦さんがボールがなく布を丸めたものを懸命に追いかけている子供の姿を見た時からだという。以来カンプボジャ、プータン、ヨルダン、モンゴル等何ヶ国にも及ぶ。新しいボールでなく、古いものにこだわるのは「持ち主の思いが詰まっていて、贈った先で大事にされる」と思うからだという。

このご夫婦は平成十七年に都筑区仏教会が仏式結婚式を催す呼び掛けをしたところ、第一号で応じたカップルである。戒師職業五名衆人三名で挙式した。教会や神社での結婚式が一般化する中、仏式の挙式をして「仏式は近くて遠いものだったが先祖に誓いを立てる身近さ」がよかったという。テレビ局、新聞社の取材もあって話題を賑わせた。このご夫婦の活動で世界の子供に大きな喜びをもたらせているのは大変嬉しい。

栄区

こうして書いて居ります本日三月三日は亡夫前住職の命終の日。十三回忌でございます。突然の急なる旅立ちでございます。残された義母、大学生の娘二人そして私と女ばかりの家族でございます。寺の行く末や如何にやとの思いのみ頭に去来して涙も出ませんでした。私は朝な夕な本堂にてひたすらお念仏を称え本尊様に救いを求めました。まわりの皆様に助けて頂き至らぬ私が住職として今日迄勤めて参りました。この間、上の娘は縁有り真言宗の寺に嫁ぎ下の娘は少僧都養成講座を受け僧侶となり同講座で机を並べた修行仲間とおつき合いが実りこのたび結婚致しました。幸にも相手の青年僧が拙寺に入寺の運びとなりました。誠に有難い事と思えます。本尊様の御加護と皆様方のお蔭様と感謝の念で一杯でございます。 合掌 法安寺 戸谷妙蓮

三浦七福神初詣バス参拝
当区仏(会長 萬蔵寺・河本博文)では、一月二十七日に三浦七福神初詣バス参拝を行いました。参加者一三〇名と盛況でありました。当日は温かい日差し、空と海、富士山、大根畑、河津桜など、素晴らしい景色の中、ポランテアガイドの解説付きで五ヶ寺二社を参拝。ご朱印は宝船が描かれた色紙に拝受。特に、相談のついでにいただいた福祿寿安置の妙音菩薩様で、花山曼荼羅(名付けた背景

緑・青葉区仏
三浦七福神初詣バス参拝
当区仏(会長 萬蔵寺・河本博文)では、一月二十七日に三浦七福神初詣バス参拝を行いました。参加者一三〇名と盛況でありました。当日は温かい日差し、空と海、富士山、大根畑、河津桜など、素晴らしい景色の中、ポランテアガイドの解説付きで五ヶ寺二社を参拝。ご朱印は宝船が描かれた色紙に拝受。特に、相談のついでにいただいた福祿寿安置の妙音菩薩様で、花山曼荼羅(名付けた背景



の寺山を登山の後、本堂で法話を拝聴し、甘酒のお接待をいただきました。城ヶ島のしぶき亭の屋敷はマグロに尽し、アジの開きの土産付。三崎港産直センターへ立ち寄り買い物。運行も順調で十八時前には中山・長津田へ帰着。参加者にも大変好評でありました。今後の予定は三月二十五日は普通救命講習を観護寺様で開講。四月三日に花まつり参拝旅行・川崎大師・お台場・等々力不動く渓谷

『奉讀会だより』を読んで
中外日報社 小川寛大
謹啓、余寒の候、時下ますますご清祥のことと存じます。今般は貴会発行の『奉讀会だより』にて、弊紙「中外日報」一月一日号の高橋祥明監督のインタビューをご紹介します。誠にありがとうございます。映画「禅」の方も、大変好評で、興行成績を伸ばしていると聞きます。暗いニューズばかりが目立つ昨今ですが、少

編集後記

でも世に明るいものを提供していく種となつてほしいものです。また「奉讀会だより」も拝読させていただきますが、涅槃会や研修旅行など大変意義深いご活動が続けられて三十年になるのとこと。現代の仏法の精華、横浜にありと感服した次第です。「満願地藏」一「断願地藏」のお話には、私もうならされました。借りもののお話でも、きちんとそういうお話の人々に示された玉泉寺のご住職は立派であり、また、そういうお話をきちんと心に留め、「奉讀会だより」に分かりやすく載せられた編集子氏も立派だと思えます。いいお話でした。誠にありがとうございます。

これを機に、どうか貴会の活動なども取材させていただけることがあれば幸いです。末筆ながら、今後の貴会ますますのご清祥をお祈り申し上げます。 謹白
平成二十一年二月六日
横浜市釈尊奉讀会事務局御中
(中外日報社より奉讀会事務局に丁重なる書簡をいただきましたので掲載させていただきます)

◎本年は横浜開港一五〇年を迎え、市の記念事業が色々と開催される。明治という近代開国の時代、新しい西洋思潮が強い影響力を持った文明として運び込まれた。明治期早々、神道国教化政策のもとに、神仏分離令が布告され、廃仏毀釈が勃発したが、仏教界にとつては最大の打撃であった。護法運動に専心し、仏教の近代化に尽力した。「仏教とはなにか」―その歴史をふりかえる―大正大学仏教学科編 幕末に外国領事館に寺院を提供したり、外人墓地などに寺領を供出したたり、開港の歴史とゆかりの深いご寺院も多いようだ。以前に港北区仏担当の涅槃会の会処の三会寺様の明治期の釈尊像はスリランカに留学し、帰国後廃仏毀釈の法難に真摯に立ち向い仏教興隆に大きく寄与された。大熊弁五(一八一〇〜一八〇〇)。神奈川三寶寺(神奈川区台町七) 第二十一世住職(浄土宗)に嘉永二年(一八四九)赴任し、三〇年間をすごした歌僧。文明開化期の当地の羅紗綿(ラシャメン)とか石鹼玉とか伝信機、瓦斯燈(ガストウ)など、さまざまな世相を、新しい趣向のもと自在にうたつて多くの佳作を残し、たかく評価されている。(「神奈川県百科事典」。現代の我々にも、「一切皆苦」「諸行無常」「諸法無我」「涅槃寂靜」をよくよく観じ、智慧を働かせ、慈悲を発露し、仏法を行持せねばと横浜開港一五〇周年に偶感を記す。

春の仏参拝のお知らせ

日時 平成21年6月20日(日)
場所 雨引観音楽法寺(茨城県)
益子焼 真岡鉄道(栃木県)
旅費 九〇〇円
メ切 五月十五日
申込 見光寺 ☎三三一―二〇〇二
業社 ビーエス観光神奈川
☎三三四―三四〇〇